

花 橘

「イクボス宣言からの七年間」

総務課長 上甲 真嗣

発行日

令和5年11月22日

第9号

発行・編集

三崎高校総務課

「私たちはイクボスを宣言します」、三崎高校に赴任した七年前、当時の校長先生が職員会議でそう仰っていた。従業員が育児に専念できる職場環境作りを目指すイクボス。私もその宣言を聞いて、赴任を機に、それまでの生活を改め、積極的に育児に関わることを決意した。当時、長男が中一、次男が小五と大きかったが、長女が年長、次女が三歳と幼く、八幡浜市の保育所に通わせていた。保育所の迎えは午後六時までで、終業後すぐに学校を出ないと間に合わなかった。伊方町から八幡浜市に入った所でいつも渋滞しており、六時ぎりぎりに保育所に着くと、迎えが一番遅い娘たちは、いつも保育所の先生と一緒に玄関で待っていた。先生にお礼を言い、子どもにも申し訳ないと思いながら車に乗せていた。帰宅すると、夕飯作り。それまでは、妻に任せきりだった料理だが、レシピ本を買ってレパートリーを増やした。そうすると、肉や魚の調理方法はいろいろあるが、とりあえず酒とみりんと醤油と鳥ガラスープの素さえあれば味付けには困らないことが分かった。時短料理ができるクッキングプロという圧力鍋も購入し、煮物料理もできるようになった。夕食が終わると、食器を洗い、洗濯物を畳む。家事は妻と分担して行うようになった。共働きの妻も教員をしているが、子どもたちが生まれて数年は育児休暇を取得し、家事や育児を一人で行っていた。当時の私は、3年生の担任や運動部の顧問をしており、毎日帰宅が遅く、休日も遠征等で家を空けることが多かった。四人の子育てと家事を一人でこなす負担は大きく、妻がその年二回目の肺炎を患って入院した時、このような生活を続けていてはいけなさと悟った。そうして赴任した三崎高校では、多くの先生方に助けられ、仕事と育児を両立することができた。同僚の先生方の理解とサポートがあったからこそ、早く帰ることができ、家事や育児に専念できたと感謝している。お陰様で、今年、長男は大学生に、末っ子は小三になった。成長した子どもを見る度に、三崎高校の先生方のお陰だと感謝に堪えない。また、子どもが生徒と同じ年齢になると、生徒を見る目も変わり、親の気持ちにもなれるようになった。授業で我が家の育児話をした日の帰りには、「晩御飯作り頑張ってください」と生徒から声をかけてもらったこともあった。

三崎高校には、お互いに支え合うことのできる先生方や生徒たちがいる。家庭と仕事を両立できる職場や学校の雰囲気は、三崎高校の魅力の一つだと感じる。私もその一員として、少しでも貢献できるよう務めていきたい。

文化祭

11月3日に「描けばカラフル 創ればマジカル 笑う姿はリズムカル」のスローガンのもとで文化祭を行いました。みさこう応援団、みさこう郷土芸能、吹奏楽部の迫力満点で楽しいステージで幕を開けた今年の文化祭。その後に行われたクラス対抗合唱コンクールでは、この日のために練習を重ねたハーモニーが響きました。結果は3年2組が最優秀賞、2年2組が優秀賞を獲得しました。どのクラスも感動的な歌声を披露してくれました。

また、各教室では、縁日やお化け屋敷、喫茶店にアイス屋さん、みさこうカフェ、フォトスポットといった、クラスごとに特色ある展示や模擬店が行われました。合わせて、PTAの皆様によるバザーや地域の業者の方々による出店、ワークショップもあり、多くの来場者の方々に楽しんでいただくことができました。

体育館での有志発表では、緊張しながらも思い思いの方法で自分を表現する生徒の姿が見られ、会場全体が大興奮でした。また、本校卒業生である宇都宮大空さんによるダンスステージも圧巻でした。最後に海外での研修を行った3年生の発表が行われ、自分たちの経験を堂々と語ってくれました。天気にも恵まれ、最高の思い出ができました。ご協力、ご来場いただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

